

○平成 29 年度 政策形成実践研究について

研究テーマ	定住外国人活躍施策の提案 ※『地域ブランド』分野から研究員が自ら選定
期間	平成 29 年 6 月 8 日～平成 30 年 2 月 2 日（計 12 回）
修了者	8 人（平塚市 2 人、鎌倉市、小田原市、茅ヶ崎市、座間市、大井町、センター職員）
アドバイザー	相模女子大学人間社会学部 教授 松下 啓一 氏
研究の概要	<p>平成 29 年度は、自治体が持続的な行政運営をしていくための一つの方策として、増加の見込まれる定住外国人を多様な人材（地域資源）と捉え、定住外国人が地域で活躍するための体制づくりを提案するために研究を進めた。</p> <p>まず、国、神奈川県などの統計からデータの収集・分析を行ったほか、県内市町村に対して外国人施策に関するアンケート調査を実施し、さらに、定住外国人の活躍施策を展開する全国の自治体などへの先進事例研究を実施した。</p> <p>これらの情報を基に、地域資源としての定住外国人の可能性を見出した上で、定住外国人の多様性がもたらす地域との摩擦を減らそうとする従来の「支援」施策から、多様性を地域活性化の原動力として生かそうとする「活躍」施策への転換を提唱し、その実現に必要な理念や視点、具体的施策をまとめている。</p>
報告書目次	<p>第 1 章 本研究の意義と構成</p> <p>第 2 章 定住外国人の現状</p> <p>第 3 章 外国人施策の状況</p> <p>第 4 章 定住外国人の可能性を読み解く</p> <p>第 5 章 定住外国人活躍施策の提案－ The Vision of Triaction －</p> <p>第 6 章 定住外国人が活躍する地域を目指して</p>